

手賀沼における繁殖期のケリ *Vanellus cinereus* の観察

平岡 考

キーワード：ケリ, *Vanellus cinereus*, 繁殖期, 観察記録, 手賀沼

1995年7月14日午前5時20分ころ、千葉県沼南町岩井新田の手賀沼に接した水田（35°51'N, 140°01'30"E）上空を飛ぶケリ1羽を観察した。はじめキッ、キッ、キッ、という声をしたため声の方を見ると、2羽の中型の鳥があまり高くない高度で飛来するのが見えた。1羽は途中から離れていったため、頭上にせまってきた1羽を双眼鏡で観察した。この個体は、翼角から先が3角形にとがった特徴ある飛翔型をしており、脚が尾の先へ突き出しているのが見えた。また、初列風切が黒く、次列風切が白いのがよく見えた。これらの特徴と鳴き声からケリであることがわかった。もう1羽の鳥がケリであったかどうかは確認できなかった。

筆者は、早朝の鳥類調査のため、同年の5月下旬から8月中旬まで10日間にほぼ3日の割合で現地にテント泊していたが、7月14日以前に何日も、夜間にキッキキキという声が周辺の水田上空を飛び回っているかのように聞こえるのを聞いており、種類がわからないまま放置していた。ケリの多産地である愛知県在住の真野徹（私信）によると、ケリは夜間にさかんに鳴いて飛ぶのが聞かれるという。このことを考え合わせると、筆者が聞いた夜間の声はケリの声だったように思われる。ただし、声を聞いた日付は記録していなかった。また、7月14日以降には夜間の声には気づかなかった。また、日中姿を見ることもなかった。

これらのことから、ケリは、繁殖終了後の移動等で観察当日に偶然飛来したのではなく、

1995年の繁殖期に、当地に1羽ないし少数羽がしばらく滞在していた可能性が大きい。ただし、飛翔がよく目立つこと、営巣しているばあい侵入者にたいし鳴きながら果敢に攻撃をしかけることなどの本種の特徴と、日中の観察が1回だけだったことを考え合わせると、個体数はごく少数で、また繁殖の可能性は小さいと考えられる。

我孫子野鳥を守る会(1994)によれば、本種は手賀沼周辺ではおもに秋から冬に水田等で観察されるが、7月にも観察例があることになっている。しかし同会の西巻実（私信）によると、この記述の根拠である星川(1987)の「7月6日探鳥会にて」は「9月6日探鳥会にて」の誤植であり、実際には7月の記録はなかったことが判明した。また、その後も同会では繁殖期にケリを観察していない（赤尾完，私信）。

千葉県全体でも、本種は非繁殖期の記録しかなく冬期漂行する冬鳥であった(千葉県1976)。また、国内の繁殖分布は1978年の調査によれば、東海から近畿地方におもな繁殖分布があり、関東地方では繁殖が確認されていない(日本野鳥の会1980)。しかし、本種の以前の国内の繁殖南限は栃木県であり、近畿地方の繁殖の初確認は1956年であるなど、この50年程の間でも繁殖分布が流動している(日本野鳥の会1980)。千葉県では1998年になって当地から約15km離れた野田市今上耕地で本種の繁殖が記録された(新保ほか1999)。手賀沼周辺における本種の今後の動向に注目してゆきたい。

本稿を作成するにあたり、真野徹氏にはケリの繁殖地における習性をご教示いただいた。また、西巻実氏には「ほーほーどり」の誤植について、赤尾完氏には我孫子野鳥を守る会の最近の記録について調査していただいた。野田での繁殖については新保國弘氏にご教示いただいた。これらの方々に感謝する。

文 献

- 我孫子野鳥を守る会. 1994. 手賀沼の鳥—20年の観察記録—. 我孫子野鳥を守る会. 165pp.
- 千葉県. 1976. 千葉県鳥類目録. 千葉県. 134pp.
- 星川真弓. 1987. 7月6日探鳥会にて (布施弁天付近). ほーほーどり, 79:4.
- 日本野鳥の会. 1980. 鳥類繁殖地図調査1978. 日本野鳥の会. 560pp.
- 新保國弘・柳沢朝江・片岡真智子・北城道夫・柄澤保彦・桑原和之. 1999. 千葉県におけるケリの繁殖初記録. *Strix*, 17:93-99.

Observation of the Grey-headed Lapwing *Vanellus cinereus* in the breeding season in
Lake Teganuma

Takashi Hiraoka

In early morning of 14 July 1995, I observed a Grey-headed Lapwing *Vanellus cinereus* flying over paddyfields on the southern shore of Lake Teganuma, Chiba Prefecture. At first it was flying with another similar-sized bird but I was unable to identify the latter individual. In the 1995 breeding season I sometimes heard at night flight calls presumably of this species at this site. These observations suggest that at least one individual of this species spent the breeding season of 1995 near the lake, although it is doubtful that it bred. Considering the changing nature of its breeding distribution in Japan, and considering the recent discovery in Noda of its first breeding in Chiba Prefecture, we should carefully watch for breeding of this species here in Lake Teganuma.

KEY WORDS: Grey-headed Lapwing, *Vanellus cinereus*, breeding season, observation record, Lake Teganuma.

Yamashina Institute for Ornithology, Konoyama 115, Abiko, Chiba Pref., Japan 270-1145.